

東京大学大学院人文社会系研究科現代文芸論/スラヴ語スラヴ文学研究室

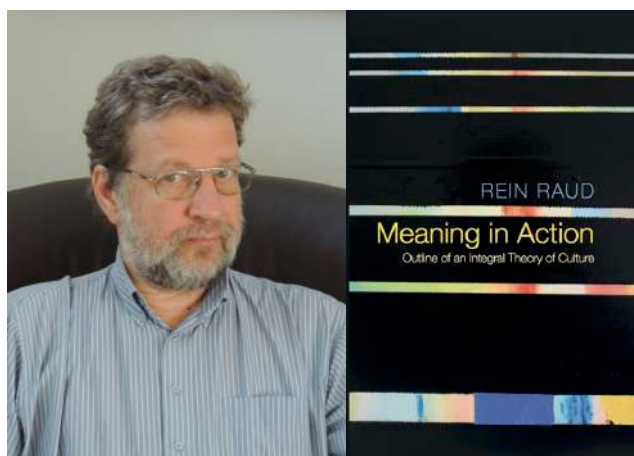
東京大学総合文化研究科比較文学比較文化研究室共催

レイン・ラウド博士特別講義

Doctor Rein Raud (Tallinn University, Estonia)

Meaning in Action: Outline of an Integral Theory of Culture

行動における意味——統合的文化理論の試み



日時 2018年11月19日(月) 午後5時~6時30分

November 19, 2018 (Monday) 5:00 – 6:30 pm

* 講義は英語、通訳なし。質疑応答は日本語・ロシア語も可。The lecture will be delivered in English.。

Working languages for discussion: Japanese, English, and Russian.

場所 東京大学(本郷キャンパス) 法文1号館2階219番教室
Room 219, 2nd Floor, Faculty of Law and Letters Bldg. No. 1
Hongo Campus, The University of Tokyo

* 事前予約不要、専門的関心をお持ちの研究者の皆様のご来聴を歓迎します。

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

交通 地下鉄丸ノ内線・大江戸線「本郷3丁目」、南北線「東大前」等下車、いずれも徒歩10分。

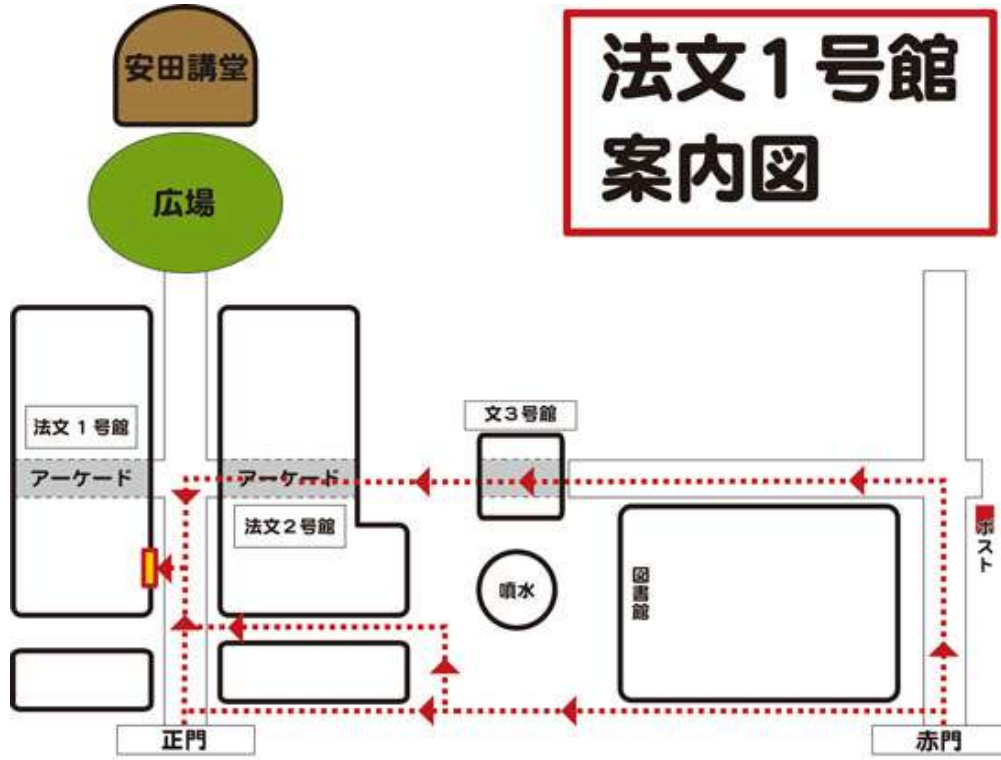
東大構内案内図 https://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_01_01.j.html

問い合わせ先: 文学部現代文芸論研究室 電話・Fax 03(5841)7955

レイン・ラウド氏は、エストニアの日本文化研究者、文化理論家、詩人・小説家。レニングラード大学で日本文学を専攻後、ヘルシンキ大学で博士号取得(文学理論)。タリン大学初代学長を務め(2006-2011年)、ヘルシンキ大学世界文化学部教授を経て、現在、タリン大学研究教授。ヨーロッパ日本学協会会長を務めたこともあります(2011-2014)。最近は小説執筆にも意欲的で、現代エストニアを代表する小説家としても知られ、小説は英訳が続々と出版されています。

今回の特別講義は、ラウド博士が英語で書いた文化理論書 *Meaning in Action: Outline of an Integral Theory of Culture* (Cambridge, U.K.: Polity, 2016) の内容に基づいたものです。ここでラウド博士は時代と場所の境界を超え、文化のテキストと実践を統合的に捉えるための画期的な文化理論を展開しています。質疑応答では、本書の内容についてだけでなく、エストニア文化のことやラウド博士の小説のことなども伺えます。

東京大学構内地図（講義会場は法文1号館2階219番教室）



法文1号館 案内図

※ 銀杏並木沿いの入口よりお入りください。